

奈良女子大学における女性研究者支援の歩み

富崎 松代

奈良女子大学の男女共同参画推進の歩み：奈良女子大学では、2005年度に男女共同参画推進室が設置され、2006年度採択事業「女性研究者支援モデル育成」のもとで、教育研究支援員制度、子育て支援システム等が構築されました。2008年よりwebを用いたシッター派遣システム「ならっこネット」、2010年より研究会等のイベント託児システム「ならっこイベント」の運用が開始されました。2010年度「女性研究者養成システム改革加速」事業、2011年度「ポストドクター・キャリア開発」事業採択に伴い、2012年度に男女共同参画推進機構へ組織改革（4本部体制）、2016年度に再編し3本部体制になりました。2019年度の文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業に採択され、2021年春に訪問型病後児保育支援、2023年春からは訪問型病児保育支援の運用が開始され、現在に至っています。

奈良女子大学の支援の特徴：学内でアンケート調査やインタビューを実施して潜在的なニーズを探り、本当に必要なものを構築することとしています。そして、一人一人のニーズに合わせた支援ということで「必要なところに必要な支援」を合言葉にしております。大学生・大学院生はもちろんですが、卒業後も様々な情報提供を行い、生涯にわたって支援を行おうとしています。そして、取組がうまくいってもいなくても、常に現状を把握し、それを改善し見直すことを行っています。これらの特徴を踏まえた主な支援策が、**教育研究支援員制度**、**web(ならっこネット)**を使った**子育て支援システム**、**WLB支援相談室**、**大学内の子育て支援に関わる環境整備**、**意識啓発活動**です。

教育研究支援員制度：出産・育児・看護・介護に携わる女性研究者に、その教育研究活動を支援する人として、主に博士後期課程修了者を配置する制度です。これは女性教員に対する支援であると同時に、大学院修了者に対する経済的な支援ともなります。更に重要なことは、学生・院生が教員を支援することでキャリアアップとロールモデルの取得ができているということです。2016年度からは、男性教員で同様な状況にあり、配偶者が女性研究者でその所属機関で同様の支援を受けていない場合には本制度を利用できるようになりました。2018年度からは、男女を問わず、本人の病気・けがなどの理由により支援員の配置を希望する場合には、本制度を利用できるようになりました。

子育て支援システム：この構想に当たって、男女共同参画推進室でアンケート調査を行いました。その結果、通常の保育所ではカバーできない時間帯や曜日の保育を望む声が多くありました。このようなニーズに応えるために、保育所や学童保育の後や休日保育を行うこと、そして、大学内にこのための保育室を設置することとし、互助型のネットワークを構築し、両立支援のための情報や問題点を共有するとともに、保育者を確保することとしました。本学専用の子育て支援サポーターを養成するための講座を開講し、サポーターとして登録し派遣するシステム「ならっこネット」が生まれました。大学内では学会や研究会など多くのイベントが開催され、そうした場でも託児（集団託児）のニーズがあり、これに応じてイベント託児システムを開始しました。支援システムは10年以上事故もなく、子育てをしている方にはなくてはならないシステムに成長しました。そして、2021年春に訪問型病後児保育支援、2023年春からは訪問型病児保育支援の運用が開始されました。

男女共同参画推進機構・ダイバーシティ推進センターの活動(2022年度)：上で紹介した支援策を含めて、2022年度には次のような活動を行いました。

- **ダイバーシティ環境整備支援：**女性研究者ネットワーク、関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティネットワーク、教育研究支援員制度、子育て支援システム等
- **女性研究者の研究力向上支援：**研究スキルアップ支援、異分野研究交流会開催・シーズ発掘支援、共同研究スタートアップ支援等
- **大学院生等のキャリア形成支援：**博士号取得支援、研究インターンシップ支援
- **意識啓発活動・地域連携事業：**“知る・学ぶ・伝える equality”連続講座

上記のような支援活動は次世代の育成につながるものであり、男女を問わず社会全体の事として捉え、努力の積み重ねによって皆で助け合い継続していくことが大切だと思います。